The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	各班の討論　討論のまとめ
Author(s)	
Citation	OUFCブックレット. 2014, 3, p. 83-87
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/27103
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

討論のまとめ

歴史／历史／歴史

本グループが議論した五つの課題は，20 世紀の大部分を総覧し，政治体制・社会文化・東アジア地域関係という三つの側面から近現代中国の歴史を掘り下げるものである。三氏のコメンテーターから頂いた評論は，それぞれ長所があり，どれも非常に示唆的である。西村氏は近代中国ネイション・ステートの形成と東アジア国際公共財という枠組みから，近代中国における政治・経済・社会の統一過程に現れた問題や矛盾と，東アジア国際秩序の変化との錯綜した関係を指摘した。また，江氏は近代中国の発展の歴史的変遷と日中関係の発展と変容が連動関係にあることを指摘した。さらに，陳氏は歴史の脈絡を把握することを通して，地域国家間の教育文化交流を強化し，相互の信頼を深める協力プラットフォーム構築の重要性を指摘した。論者であれコメンテーターであれ，歴史の視点から現実の問題に関心を払うという発想を有している。本グループが検討した歴史研究課題は，何れも今なお進行中の中国の近代化と東アジア国際関係に強く関わっている。特に日中関係を考えると，歴史と現実を対比して，過去と現在との連続性にも配慮を払うことが極めて重要である。グローバル化が急進展している 21 世紀において，脆弱であっても切っても切れない日中関係は，歴史的原因と現実の要因とを結び付けて検討し，展望する必要があろう。（鄒燦）

历史组的 5 个论题在时间轴上横跨了 20 世纪的大半段，在研究方向上则从政治体制、社会文化及东亚关系等三个侧面对近现代中国进行了纵向剖析。三位

老师的评论提纲挈领且各有千秋。西村老师侧重以近代中国国民国家的形成及东亚国际关系共建的思路，来理解近代中国在政治、经济、社会统一过程中呈现的问题及矛盾，以及这一过程与东亚地域秩序变动之间的错综关系。江沛老师则重点指出了近代中国自身发展的历史节奏与中日关系发展变化的连动关系。而陈进金老师更注重透过对历史发展脉络的把握，来加强地区国家间的教育文化交流、构建地域性互信合作平台。实际上，无论是论者自身还是评论人，都是从历史的视角出发表达了现代性关怀。本组所考察的课题都是过去的历史，但其无一不与当今中国尚未完成的现代化进程及东亚国际关系的构成息息相关。尤其在考虑中日关系时，历史与现实的对照性、过去与现在的连续性是极为重要的。在全球化加速演进的 21 世纪，既难以割离又极为脆弱的中日关系，更需要我们结合历史原因与现实因素来检讨与展望。（鄒燦）

政治・社会／政治与社会／政治與社會

支配層は自ら主張する政策により社会を統治するが，社会の動きも政治に一定的な影響を及ぼす。このことは，政治と社会における相互の連動性について陳德奇氏の「台湾外省人研究序説」と林志晟氏の「緑金戦略－国民政府農林部による第一国営経済営林場の設立と発展」の研究からも確認することができる。とは言え，支配層と社会を媒介する多くの変化要因が存在するため，両者をどのようにバランスを取るのかは難問である。たとえば，一党専制の中国共産党は中国が世界で台頭するにつれて，その大国として果たすべき平和維持への役割と，歴史認識問題で紛糾する日本や民族統一問題を抱える台湾，そして南シナ海の領土問題をめぐるベトナム・フィリピンと言う諸課題にどう向き合うかという問題である。石羽氏の「中国海洋権苦境の原因と対策の関係について－地政学理論の視点から」では，急速な台頭によって，中国は陸上の視点から政策を形成する考えに拘束され，海上進出に適合的な政策形成を困難にしていると指摘する。また洪政儀は，警察に属する部隊の役割に言及する。すなわち主権に関わる紛争において，関係国が軍隊を派遣のではなく法執行を行う警察が

出動する傾向が見られるとする。西村先生は，このような変動する情勢のなかで研究者が客観的に問題を考察することは大変意義のあることであり，今後の研究に期待すると述べた。（洪政儀）

當權者採用其所主張政策治理社會，同時，社會風氣也會影響政策制定、兩者相連動特性，可由陳德奇對台灣外省人研究序說及林志晟在緣金戰略-農林部第一國營經齊林場研究中可得知，當權者與社會其間，因存在許多隨時變化影響要素，，兩者如何適切採取平衡上，對各國而言均是困難問題。例如隨著中國崛起，對於採取一黨專政中國共產黨，在扮演大國維持和平的角色時，該如何與鄰近國家如在戰爭歷史方有糾結的日本、抑或肩負民族統一問題台灣及南海越南、菲律賓等諸國主權問題上，稍有不慎，極容易引發區域紛爭。討論中，石羽同學指出，中國由於迅速掘起，一向以陸權思考政策下，在欲向海上擴充同時，如何適切制定政策，正是目前困境所在。此外在洪政儀同學文章中，也指出，近日海上主權上紛爭時，相對於直接出動軍隊，採用法律執行海上警察，該扮演何角色。最後，如同西村老師所指出，在面對此一變動局勢當中，身為研究者更須針對這些問題進行客觀研究，這一點是非常難得，也期有拋磚引玉之效，期待更多研究的產出。（洪政儀）

文化・科学／文化与科学／文化與科學

本グループが議論したテーマは，文学，歴史，環境，心理という多分野を羅列しており、最も俯瞰的であると考えられる。いずれも中国という主題のもとに，多様な側面からの課題を議論することにより，中国という概念そのものをより具体化することができた。したがって，本グループの議論によって，中国及び中国の複雑な問題に対する理解がより深まるであろうと考えられる。また“変革”という言葉を軸に，内容は二つに分けられる。一つは思想変革の時代のシンボルと称される文学である。沈従文と汪曾祺は師弟関係にあり，現代中国の著名な作家である。特に汪曾祺の作品は，伝統文化から生み出され，小説創作の特徴的な技法が存在し，また中国近代の変革の背景に携

わり, 現代中国の文化形成にも繋がる重要な一環であると西村先生が指摘された。もう一つの内容は，現在中国の変革から生じた諸問題である。経済の急速な発展により，環境汚染及び心理問題が深刻化し，問題改善のための膨大な資源の投入は不可避であり，現在の中国にとって，最重要視すべき課題であると陳先生が指摘された。さらに，中国における伝統思想と近代化との間に広がった矛盾が収まらず，他方から知恵を借りつつ，自然文化と科学文明とを調和させた考え方こそ，21 世紀の中国の課題の解決への道となると江先生が最後に総括された。（潘鈺林）

本组讨论的内容结合了文学，历史、环境、心理等多个主题的内容，是全部的小组中最具有综合性的一组。在中国这个大的主题之下，通过这样对具体问题的讨论，使得狭义上的中国的概念在更具体的范围下得以延伸，而通过讨论能够更为理解现代中国和中国所存在的复杂性的根源。以变革这个词作脉络，主要的内容可以分为两个大的方向，一个是思想变革时期的文学的内容。论题中涉及到的中国著名作家沈从文和汪曾祺有着师生的关系。对于汪曾祺的作品中使用的结合了中国传统文化的小说写作手法，西村老师认为这是结合了传统的变革，是现代中国文化形成的一个重要的组成部分。另一个大的方向便是由现代中国的变革引起的种种问题。经济发展引起的环境污染和心理问题日趋严重，为了解决问题，大量的持续性的投入不可避免，陈老师认为这是中国现在所面临的问题中最应该得到重视的。江老师认为在保护传统和现代化发展之间存在着日趋深刻的矛盾，借他山之石可以攻玉，自然文化和科学文明的和谐发展或许才是中国 21 世纪所面临的问题的解决之道。（潘钰林）

認識・イメージ／认知与形象／認知與形象

歴史の記述やメディアの情報, 我々は常にそういったコンテンツから真実を知ろうとする。しかし，真実とは何か？一旦形成されたコンテンツは，真実をそのまま反映することができない。なぜなら, コンテンツには, 書き手（送

り手）による選択的注目，選択的描写，選択的判断だけではなく，読み手（受けて）による選択的理解，選択的記憶も包括されている。コンテンツを分析する我々も，このような選択性を避けることができない。そして，このような選択性は，文化を共有する社会の中ですら現れるため，異文化社会ではなおさら顕著である。我々は無意識のうち，自らの社会の中で独り言を繰り返す状況に陥ってしまう。この視点から見ると，本グループで，お互いのイメージへの描写や解読に一定の分岐が見られたのはごく普通なことである。我々の議論の目的は，コンテンツを通して歴史的真実を明らかにすることにとどまらず，真実と社会現実の相違を認識することと，その相違を生み出す力学の存在を探求することである。その探求が，偏見を乗り越える第一歩であると我々が考えた。理性的，俯瞰的，寛容的な態度を取ることが，東アジア全体の平和発展につながると信じている。（馬瑞潔／周妍訳）

文本应该反映现实。无论是历史还是新闻，人们总希望文本能够尽可能真实地反映现实。可是，什么是真实？文本一旦形成，就不再是事实本身。它融入了文本撰写者的选择—选择性注意、选择性描述、选择性判断；甚至它也包含了文本接受者的选择—选择性理解、选择性记忆。至于我们—文本的研究者，又何曾避免此种选择呢？真正的镜面反射并不存在，在跨国的文化交流中，此种偏差更为明显，甚至有可能让我们在不知不觉中，陷入本国的媒介拟态环境中自说自话。从这个角度来看，这组论文在对彼此形象的描摹与解读中存在一定歧见是完全正常的。这些论文的最大意义也并不是透过文本讨论真实的历史存在，或者论证各方文本与现实的差异究竟如何，这些文本研究的最大意义恰恰是它们不约而同地提示我们，文本与现实之间偏差与张力的客观存在。在我们看来，承认差异的客观存在正是弥合认知偏差，达成共识的前提。愿我们更理性、更全面、更宽容。（马瑞洁）